

令和6年度事業報告書

(特定非営利活動法人の名称)

N P O 法人3. 11こども文庫

1 事業の成果

令和6年度は、東日本大震災以来、ボランティアで各個人が実施してきた各事業をN P O法人として継続して取り組みながら、東京事務所（東京都足立区）および2つの活動拠点（以下、にじ文庫（福島県相馬市）、おひさま文庫（千葉県東金市））での事業を行った。

今年度も東日本大震災の被災地の子どもたちへ、日常的には絵本文庫を中心に、「アート」をテーマに支援活動を続けてきた。同時に、被災地のみならず、子どもたちを取り巻く厳しい社会状況にも目を向け、「子ども×アート」をテーマに、子どもの元気、地域の活力に役立つための様々な活動を行ってきた。

特定非営利活動に係る事業としては、「こども文庫」事業、「こばこ文庫」事業、絵本の管理・配布事業、「3月11日の、あのね。展」等の展覧会事業、講演会等講師派遣事業、この法人の広報・情報発信事業などを実施した。同時に「こども文庫」事業に充てるための寄付金などを集めた。具体的には、次のとおりである。

【東京事務所】

東京都練馬区など被災地以外の自治体から業務を受託し、被災地と全国各地をつなげる活動や、子どもを対象としたアートワークショップの企画・運営を行なっている。練馬区の「こどもアートアドベンチャー」では、練馬区立区民・産業プラザココネリ・ホールで、現在活躍中のさまざまな分野のプロのアーティストたちによる参加型ワークショップを開催、今年度は18のブースを設けた。ステージ企画もその年のテーマに沿った内容で企画し、会場内で音楽やショーも楽しみながらアートに触れる子どものためのイベントとなっており、今年度は約3,500名の子どもたちが参加した。また、展覧会活動も実施し、「3月11日の、あのね。#14」を開催した。

【にじ文庫】

にじ文庫は当団体の事業の柱として2012年9月に福島県相馬市に開設。令和6年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、換気、マスク着用、手指消毒を徹底し、通算137日の開館を行い、利用者数は年間415人であった。にじ文庫の運営については助成金を獲得しており、これをもとに現場スタッフの献身的な貢献により、運営を滞りなく行うことができた。

7月7日（日）に、相馬市役所総務部地域防災対策室の木村幸治氏を講師に迎え、「防災のお話&作ってみよう防災食」のワークショップを行った。参加人数は13名。

10月20日（土）に、ハロウィーンパーティーを開催した。参加者は、みんなすてきな衣装で参加し、相馬市中村のまちをひとまわりした。商店の皆さんにも協力いただいて、お菓子をいっぱいもらった。そして、宇田川光雄氏（紙人形劇「ダンプに乗ったクマ座」主宰。前日白大学子ども学科非常勤講師）による言葉遊びや紙人形劇で楽しい時間を過ごした。参加人数は33名。

12月15日（日）は、南相馬市を中心に活動している音楽ユニット「にじのかなた」による「クリスマス絵本ライブ2024」を行い、クリスマスの絵本の読み聞かせ、音楽で楽しんだ。参加人数22名。

2025年2月9日（日）「3月11日の、あのね。#14」出展の作品制作「オリジナルカラーの恐竜作り」を蟹江杏理事長と行った。311子ども文庫に長年ご支援いただいた故山口健児氏（日本画家）の遺作に、思い思いに着色し、個性的な恐竜を完成させた。参加人数は35名。

【おひさま文庫】

「おひさま」文庫（2018年11月、千葉県東金市に開設）は、恵まれた自然と絵本やアートに囲まれた環境を活かして、「おひさまの家」（2022年9月開設）を中心に、子どもから高齢者まで年齢などを問わずに集まり、絵本とアートに親しみ、地域のコミュニティの場となることをめざして活動してきた。

週に3日（木曜日～土曜日 各9時半～11時半 15時～17時）、「おひさま文庫」を開設し、来所者との交流を大事にしてつながり、絵本の貸し出し事業を実施した。

昨年度に続き、地域の福岡小学校スクールサポーターである山内清美氏を講師に、土鈴づくりのワークショップ（1月26日粘土整形・3月1日野焼き）を開催し、子どもも大人も個性豊かな作品づくりを楽しんだ。

これらの事業の運営には、株式会社丸山製作所はじめ個人の方からの寄付金を活用した。

2 事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額（千円）
「こども文庫」事業	福島県相馬市に開設したこども文庫“にじ”の維持管理を含めた運営業務等を行った。また、ワークショップも開催した。	毎週3日（火・木・日）10時～17時開	にじ文庫	7人	県民および市民約415人	616
「こばこ文庫」事業	福島県相馬市の小学校9校に、文庫60箱を配置し、巡回させ、管理をした。	随時	福島県相馬市内小学校	5人	1,000人以上	—
絵本の管理・配布事業	寄付された絵本の受入、仕分け作業、管理とその配布を行った。	随時	「にじ」、「おひさま」の各文庫	20人	1,000人以上	—

その他、この法人の目的の達成のために必要	練馬区の「こどもアートアドベンチャー」等の業務受託。スタッフ等の人才の発掘・育成。各種団体との連	8月	東京都練馬区	10人	約3500人	4,400
「こども文庫」事業	「おひさま」文庫の運営。絵本を楽しめる場所の提供や絵本の貸出、ボランティアによる「絵本の読み語り」など。	毎週 3日 (木・金・土の午前 午後	おひさま文庫	15人	市民(隣接市町含む) 約250人以上	600

※主な事業実施一覧

1. 東京事務所の事業

開催月	開催場所	事業名
8月	東京都練馬区	練馬区主催 「こどもアートアドベンチャー」プロデュース
3月	東京都渋谷区	3月22日～3月29日 「3月11日の、あのね。 #14 童話 記きおくの森原画展」 こくみん共済coopホール/スペースゼロ ※「にじ」「おひさま」の各文庫の子どもたちの作品 や活動状況の報告をパネル展示した。

2. にじ文庫の事業

開催月	開催場所	事業名
4月～3月	福島県相馬市 「にじ」文庫	こども文庫「にじ」運営業務(週3日開館) 新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮しながら開館。 開館日間/来館者415名/貸出356冊 にじだよりの発行 2024年は年5回発行。毎号3,000部。市内小学校、幼稚園、保育園(所)、公共施設等に配布。 第51号(5月)、第52号(6月)、第53号(9月)、第
4月～3月	福島県相馬市 市内小学校等	こばこ文庫管理、運営業務 市内全小学校9校1～3年生及び特別支援学級におよそ30冊入りのこばこ文庫を60箱程度設置し、学級文庫として活用してもらい、読書に親しむ機会の拡充に努める。 毎年2回に1回のペースで配付

3. おひさま文庫の事業

開催月	開催場所	事業名
1月	おひさま文庫	土鈴づくり1回目（粘土成型）子ども11人・大人9人
3月		土鈴づくり2回目（野焼き）子ども16人・大人16人